

別記様式第6

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（ 文学 ） Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	竺 銀児
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論 文 題 目 (Title of Dissertation) 『源氏物語』と『維摩経』—末摘花巻・蓬生巻の読解を中心に—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授	妹尾 好信
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	久保田 啓一
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授	本田 義央
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教育学研究科 教授	竹村 信治
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>『源氏物語』と仏教の関係については多くの研究が積み重ねられているが、本論文は、これまで仏教的要素が少ないとされてきた末摘花の物語に、仏典、とりわけ『維摩経』の影響が顕著に認められることを論じた斬新な研究である。</p> <p>全体は、序章、2編7章の本論、結章から成る。</p> <p>序章では、『源氏物語』と『維摩経』に関する研究の現状を述べる。</p> <p>第一編は、「光源氏の恋物語と「別離」の琴曲」と題し、第一章「若紫巻北山の琴楽についての考察」、第二章「明石巻「広陵」の弾琴」の2章を置く。この2章は、若紫・明石両巻における光源氏の弾琴場面を取り上げ、琴（きん）が光源氏の恋愛遍歴において大きな意味を持つことを論じる。琴は「禁」に通じて禁忌の恋をイメージすると同時に、「別離」や「流離」をもイメージすることを指摘する。末摘花の噂が琴を弾く姫君として光源氏の耳に入ることから、末摘花との恋物語は琴を媒介とし、琴によって結びつけられた関係である。すなわち、第一編の2章は、本論文の中心を成す第二編への序論と言うべき位置づけにある。</p> <p>第二編は「末摘花の物語と『維摩経』」と題して、第一編で論じた琴のイメージを絡めつつ、末摘花・蓬生両巻に展開する末摘花の物語と『維摩経』の関係を詳細に読み解いていく。</p> <p>第一章「「数珠など取り寄せたまは」ぬ末摘花の物語に見る仏教の思想と救済」では、『維摩経』入不二法門品を拠り所として末摘花の人物造型を考察する。維摩詰の素質を持つ末摘花の弾く琴が孕む「空」の思想を、妄念と執着にとらわれた光源氏には理解できなかったと論じる。</p> <p>第二章「普賢菩薩の乗物とおぼゆ」る末摘花の鼻についての考察」では、末摘花の醜貌を表現する「普賢菩薩の乗物」という比喩の典拠である『観普賢菩薩行法経』が懺悔の教えを説いていることに注目し、末摘花の醜貌を心中に難ずる光源氏に対して、「分別相」「虚妄見」とらわれた罪業を懺悔すべしとの課題が与えられていると読む。</p> <p>第三章「蓬生巻「心憂の仏菩薩」を読む」では、光源氏を仏菩薩に喩える兄禅師の言葉に反発する末摘花の人物像を検討し、末摘花こそが「妄心」と「顛倒心」に汚れた光源氏を「空」の智慧に導く救済者の役割を果たす存在であると説く。</p> <p>第四章「蓬生巻の常陸宮邸の設定についての考察」では、末摘花が亡父常陸宮邸に住み続けていたことで光源氏との再開を果たした蓬生巻の展開を、『維摩経』佛国品の「心浄則佛土浄」と対応させて読むことができることを指摘する。</p> <p>第五章「末摘花の「深き蓬のもとの心」では、末摘花こそが「娑婆国土五濁悪土」に生まれて衆生</p>			

に「厭離穢土」「欣求浄土」を教え諭す仏菩薩の役割を果たしていると論じる。

結章では、『維摩経』の視点から見る末摘花の物語」と題して、本論文全体を総括する。

以上のように、本論文において、著者は、末摘花の物語から、『維摩経』に解かれる仏教思想との対応や影響を、物語と経典の本文に即しつつ丹念に読み取っている。

『源氏物語』研究において、典拠論は古来さまざまな視点から行われているが、もとより絶対的な証拠を示して論証できる性質のものではない。本論文も、末摘花物語の構想に際して作者は『維摩経』の教えを参考にした可能性があるとの推論に留まるという限界がある。ただ、作者の意図はともかく、そのような読み方も可能であると考察し得たことは、『源氏物語』という文学作品に新たな価値や意義を見いだしたという点で十分評価に値する。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)